

連続利下げに踏み切ったFRB

ポイント① 予想通り0.25%の利下げ

9月17、18日に開催された米国の金融政策決定の場であるFOMC（米連邦公開市場委員会）では、政策金利であるフェデラルファンド金利の目標値上限が2.25%から2.0%へと引き下げられました。7月30、31日開催の前回FOMCに続いて連続の利下げとなりました。

金融市場にとっては予想通りの利下げであり、大きなサプライズではありませんでした。

ポイント② FOMC内で見方が割れる

ただ、今回の利下げに対して議決権を持つFOMC参加者のうち2名は利下げすべきでないとして反対し、1名は0.5%の利下げを求めて反対しました。また同時発表の議決権を持たない人も含めたFOMC参加者全員の経済・金利見通しを見ると、5名は今回を含めて年内の利下げは不要としたのに対し、5名は今回の利下げ後は年内据え置き、7名はさらに0.25%の利下げを予想と意見は割れています。

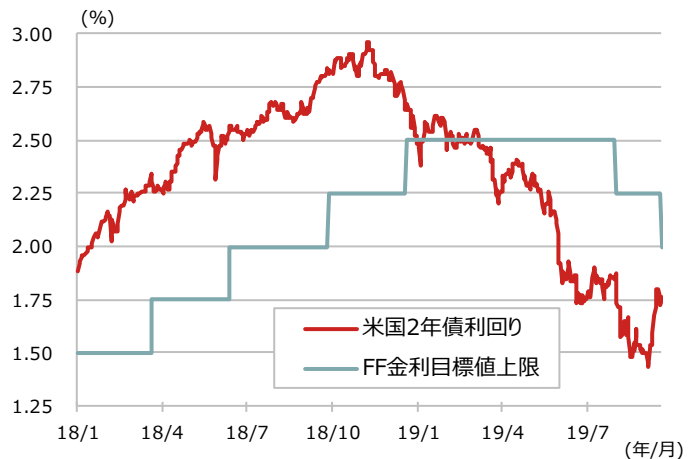
市場では全体的に見てFOMCは追加利下げに慎重という見方が生じ、米国債利回りは利下げ発表後にやや上昇しました。

ポイント③ 次回FOMCも利下げの公算大

今回のFOMC声明文にもあるように、米国の個人消費は堅調に推移しているものの、輸出、設備投資には弱さが見られます。10月に予定されている米中通商交渉でも大きな進展は期待できず、世界的な貿易の減退には歯止めがかけにくいです。輸出や設備投資の弱さが次第に雇用や個人消費に波及する可能性もあり、10月末の次回FOMCで3回連続の利下げが行なわれる公算は大きいようです。

図1：米国の政策金利と米国2年債利回り

期間：2018年1月1日～2019年9月18日、日次



(出所) Bloombergより野村アセットマネジメント作成

図2：FOMC参加者の経済見通し中央値

(単位、%)

	予測時点	2019					中長期
		2019	2020	2021	2022	中長期	
実質GDP ¹	19年9月	2.2	2.0	1.9	1.8	1.9	
	19年6月	2.1	2.0	1.8		1.9	
失業率 ²	19年9月	3.7	3.7	3.8	3.9	4.2	
	19年6月	3.6	3.7	3.8		4.2	
個人消費支出 デフレーター(総合) ¹	19年9月	1.5	1.9	2.0	2.0	2.0	
	19年6月	1.5	1.9	2.0		2.0	
個人消費支出 デフレーター(CPI) ^{1,3}	19年9月	1.8	1.9	2.0	2.0		
	19年6月	1.8	1.9	2.0			
FF金利 ⁴	19年9月	1.9	1.9	2.1	2.4	2.5	
	19年6月	2.4	2.1	2.4		2.5	

(注) 1：第4四半期の前年同期比 2：第4四半期平均値

3：エネルギー、食料品を除く 4：年末または中長期の目標レンジ中央値

(出所) FRB（米連邦準備制度理事会）資料より野村アセットマネジメント作成

重要
イベント

9月27日

米個人所得・消費支出、個人消費支出デフレーター（8月）
米耐久財受注・出荷（8月）

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。